



はしる

走

富岡 勝則

皆さんこんにちは。

うっとうしい梅雨も今月半ば過ぎには明け、もうすぐ夏本番です。毎年朝霞の夏を彩る「彩夏祭」ですが、今年は前夜祭が復活し8月3日(金)から5日(日)の3日間開催されます。昨年は、最終日の夕方、ゲリラ豪雨に見舞われ、残念ながら中止となってしまいましたが、今年はお天気が最後までもってほしいなあと思っています。

さて、4年に1度開かれるスポーツの祭典オリンピックが、いよいよ今月の27日からイギリスのロンドンで開催されます。私は、毎回、日本代表選手がオリンピックの大舞台で活躍してくれるのを楽しみにしていますが、とりわけ今回は、朝霞第一中学校出身で、現在、埼玉栄高校陸上部に所属している土井杏南さんが、女子4×100メートルリレーの代表候補に選ばれ、オリンピックに出られそうなので、その行方を注目しています。日本がこの競技の出場権

を得るには、7月2日に発表される世界ランキングで16位以内に入っていないといけないのですが、この原稿を書いている時点で12位なので、無事に出場権を獲得できるのではと期待しています。日本が出場権を獲得し、土井さんが代表としてオリンピックに出場すると、16歳11か月という戦後の陸上選手で最年少でのオリンピック出場となり、本当にすごいことです。土井さんは、朝霞第一中学校に在学中の2、3年生の時に全日本中学校陸上競技選手権大会の女子100メートルを連覇した実力の持ち主で、高校2年生の今年は、5月の埼玉県高校総合体育大会陸上競技大会で、高校新記録となる11秒43を記録したほか、6月の日本陸上競技選手権大会の決勝では、好スタートから70メートルくらいまで首位を守り、残念ながら最後は日本記録保持者の福島千里選手に抜かれてしまいましたが、2位という素晴らしい順位でした。代表候補に選ばれただけでもすごいことですが、土井さんがオリンピックスタジアムで華麗に駆け抜ける勇姿を是非見たいと思っています。

また、陸上自衛隊朝霞駐屯地内にある自衛隊体育学校から12人、さらに市内在住で元自衛隊体育学校の方1人の合計13人もの方々が、様々な競技に出場します。朝霞市に縁のある方だけでなく、出場するすべての選手の皆さんが日本に元気を届けてくれるのを期待しています。ではまた。

朝霞市は 男女平等を進めています

～一緒に考えていこうよ③～

男女の間で考え方や意見が違ふとき、そこにはそれぞれの“言い分”があることも。お互いが相手の目線で考えることができたならよりよい関係が築けるのでは…そんな思いをこめて、このコラムではさまざまなライフステージでの男女の言い分を、男女平等推進事業企画・運営協力員が身近にいる男女にインタビューして紹介します。

今回のテーマは、「結婚観からみる夫の言い分」です。

近年、若者の結婚に対する意識が低くなったと言われています。背景には、就職難などの経済的な理由のほか、恋愛で満足してしまう、責任を持ちたくないといった消極的な考えもあるようですが、東日本大震災以降、人と人との絆の大切さが見直され、結婚に踏み切ったカップルが多く出てきたそうです。

そこで、今回は周りの20～50代の結婚している男性にインタビューしてみました。

まずは、「あなたにとって結婚とは？」

若い世代では、結婚を「人生で最も幸せなこと」「ひとつのゴール」「第2のスタートライン」など人生の大きな節目と捉えている一方で、「時間やお金の縛り」「自分の自由が無く制限がでてくる。」など窮屈さを感じている人も。世代が上がるにつれ、「帰属する“場”をつくること」「信頼と努力の継続」「家族のことが最優先」など、妻や家族との関係に主眼をおく傾向が。

続いて、「あなたにとっての結婚の理想と現実とは？」

こちらは世代に関わらず、ギャップを感じている人と感じていない人に分かれました。ギャップを感じている人のうち、若い世代からは「思い描いていたほど現実には甘くない。」「お互いの努力が不可欠であると知った。」などの回答が。世代が上がるにつれ、「現実とは話し合いと妥協の繰り返し」「妥協することで、結婚生活を“安定”させないといけない。」、また、共働きの方からは「仕事と子育ての両立が難しい。」「妻が専門職のため自分も協力が必要」など、妻との共同作業という認識になっていくようです。

年齢や結婚年数によっても感じ方が違ってくると思いますが、お互いを自然に思いやることができれば、「妥協」や「努力」などは負担とは感じなくなるのかもしれないね。

(次回のテーマは

「結婚観からみる妻の言い分」です。)

*このコラムは、「朝霞市男女平等推進事業企画・運営協力員」との協働により掲載しています。

問/人権庶務課 内2255 ☎463-2697

ひとの推移

人口	13万1,789人(+173人)	世帯数	5万9,936世帯
男	6万7,184人(+54人)		(+54世帯)
女	6万4,605人(+119人)	平成24年6月1日現在()内は前月比	